

大阪市(西成区) てんのじ村記念碑 ~上方演芸発祥の地~



JR環状線新今宮駅を出て、道を天王寺方面に歩いていくと、阪神高速松原線が上を走る。そのそばに、大きな碑が立っている。「上方演芸発祥の地、てんのじ村記念碑」である。直木賞作家難波利三さんの「てんのじ村」の舞台となったまちで、今の西成区山王あたりになる。

1889年(明治22年)に町村制の天王寺村ができたが、大阪市の市域拡張が行われるようになって、天王寺村の一部が南区や天王寺区などに編入されていき、このあたりも1925年(大正14年)には西成区に編入された。最後まで残ったことから、その後もこのあたりを「てんのじ村」と呼ぶようになったという。

ここは道頓堀や千日前、そして新世界などの演芸街に近かったため、全国各地から芸人たちが集まり、1945~55年(昭和20~30年)ごろの最盛期には300人以上が住んでいた。角帯姿や三味線を持った芸人が行き交い、長屋をはさんで、稽古の声や音が、夜遅くまでこだましたと言われる。すぐそばの新世界に通じる商店街の「ジャンジャン横丁」は、この演芸街の三味線の音から名づけられたという。

この新世界は、1903年(明治36年)に開催された内国勸業博覧会

の跡地に、パリの凱旋門とエッフェル塔とを一体化したような通天閣(初代)が建てられ、そこにつながるゴンドラも建設された。まわりには多くの店や劇場が建ち並び、1918年(大正8年)にはドーム型の大阪国技館も建てられ、大阪相撲を開催していた。今は大阪国技館跡の碑が立つのみであるが、その街の勢いは脈々と今に続いている。このような街がそばにあって、芸人の街「てんのじ村」が育てられた。

芸能は、その歴史をふりかえると、社会の中で決して高くは扱われなかった。そのため、常に民衆の側に立って、民衆の中にある知恵を表現したり、笑いを取り上げて和ませたり、時には民衆を苦しめる権力者を風刺して、その気持ちを代弁することもあった。この「てんのじ村」は、このような庶民の芸能を守ってきたのだろう。

今は、芸人は数名となったが、この地域は戦災を逃れたために、当時の長屋がその面影を残している。この芸人の街を後世に伝えようと、街や芸人の有志たちによって、1977年(昭和52年)11月に記念碑が建立された。碑の台座には「大入」と書かれており、庶民の芸能をしたたかに、そして力強く守りぬく、大阪の芸人気質がうかがわれる。



せんそうと平和

岬町 小学三年生(当時)

小林海斗

せんそうは ダメなこと
せんそうは 人間のかなしみ
せんそうは 人間のいたみ
せんそうは 人間のうらみ
せんそうは 人間のしかえし
でも うらみやしかえしからは
何もいいことは生まれ
平和は いいこと
平和は うれしい
平和は たのしい
平和は たいせつ
平和は えがお

世界中
せんそうがなくなればいいのに
世界中
平和になればいいのに

ありがとう

大阪市 中学二年生(当時)

古谷ちはる

生んでくれてありがとう。
お母さん。この私を育ててくれてありがとう。
通訳してくれてありがとう。
とうちゃん。一緒に遊んでくれてありがとう。
いろいろがまんしてくれてありがとう。
お兄さん。手話を覚えてくれてありがとう。
仲良くしてくれてありがとう。
友達。たくさん遊んでくれてありがとう。
手話をいっしょけんめい覚えてくれてありがとう。
みんな。障害者のための行事を考えてくれてありがとう。
こんなにくさんの人が私の周りを囲んで私を幸せにしてくれて。私だけじゃなくて同じ障害者も幸せになっている。
結婚もできる。夢も叶えられる。障害者もできることがあるから。幸せだよ。本当にありがとう。
みんな。ありがとう。

2008年度(平成20年) 人権啓発読書感想文募集事業 (大阪府大阪府教育委員会愛ネット大阪の入選作品より)

2009年(平成21年) 10月発行

この情報誌は7,000部作成し、1部あたりの単価は97円です。

発行/大阪府府民文化部人権室

編集/財団法人大阪府人権協会

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目
TEL.06-6944-6189 FAX.06-6944-6616
http://www.pref.osaka.jp/jinken/

〒556-0028 大阪市浪速区久保吉1-6-12
TEL.06-6568-2983 FAX.06-6568-2985
http://www.jinken-osaka.jp